



発行所 西蒲原郡 公民館 卷町 福川 保 印刷所 北洋印刷株式会社 (西蒲. 卷町. 電話204番)

今年の予算

河 治 忠

三月早々開かれた予算議会は約一カ月にわたる各常任委員会の検討を経て去る三月二十九日総額二五、七八五、四六〇円に及ぶ昭和二十七年度才入才出予算を成立させました。昨年度の最終予算に比すれば約一千万円の減でありますが、比較的對照となる当初予算に較べると尙約二百万円の増加となつております。既に限度に達したと思われれる町民各位の税負担の軽減を計りつつ町発展のための各種事業を起すという全く矛盾した二つの面を如何にして調和させるかが議員の予算審議に當つて課せられた大きな使命であつたのですが、結局町民税において約一五%、固定資産税において約一一%の増、税金ではありませんが、

水道料金において約二〇%の値上となつたことは現下の情勢上誠に止むを得ない処置でありました。この増加分は当然諸般の建設的諸施設に向けられるのでありますからこの点町民各位から充分御諒承をいただきたく存じます。

この機会に今年の予算に現われた二三の重点を拾い、併せて簡単に今年の町政の方向を展望してみたいと思ひます。まづ役場の人件費圧縮が挙げられます。予算において約三十万四程の圧縮に過ぎませんが中央の行政整理が泰山鳴動して何とやら現狀に比べるならば今回の理事者の英断には卒直に敬意を表してよいと思ひます。浮び出した予算は少額でも至難

の問題によく対処された決意が一般行政にいかんにか反映するか、大いに期待されるころであります。次に都市計画が正式にとりあげられた事であります。これも予算約二十万円で今年は主として事務的手續の処理に當るに過ぎませんが無計画に行き当りばつたりでやつてきた今までの土木事業は一定の計画性を与え、更には將來の大巻町建設のいとぐちをここに見出すことが出来るならばこの問題をとりあげた意義は決して小さなものではないであります。

更には現在の避病院の敷地は國保直営の診療所を建設するための特別会計約六百万円を議決したことであり、

もつともこれはこの議決書を添えて設立申請をするのでから設立許可になるかどうか目下のところわかりませんが、提案された理事者においては確信ありとされておりますから

村財政の実情に應じて配分する金)が大幅に減額される公算が強いようであるためにも先に述べた町民税の負担が増した一つの原因でもあるのですから、こ

公民館を

知つている九六、三%

「主催公民館」「会場公民館」といつた「ピラ」や「娯楽板」がこの町に見られるようになつてから五年と少々公民館の設置当時は役場の二階を仮の宿として細やかながら、公民館報の発行や展覧会、講演会、討論会、図書貸出しなどを始めてから現在の建物に移るまでには、今の常備消防のポンプ置場にいたことであつたし、又役場の二階に移つたりしながら定期講座を開設したり、各種のスポーツ大会など開催したりし

にあるかを知つておられるようです。この調査は巻町有権者名簿より各区二〇名づつ巻町二八〇名を選んだ(男一四〇名女一四〇名)中学校の生徒より配付していただき回収を求めた結果、未回答三八、回答二四二で回答率は八六、四%であつた。回答二四二の内訳は男一〇九に対し女一三三で男より女の方が回答率が高い。

第一問 あなたは巻町に公民館のあることを知つているか。 一、知つている 九六、三% 二、知らない 三、三% 三、答たない 〇、四% ほとんど公民館のあることだけは公民館報や娯楽板などで知つていようだが「知らない三、三%」の中にこの調査で初めて公民館のあることを知つたという解答が一名ある。

の境内又は隣り、中の宮の北、神明社の隣りと正しい解答が八七、二% 役場又は役場の二階と間違つた解答七、九% わからない四、九% 正しい解答で一番多く使われた言葉は巻(横)神社の隣り又は北で中には波勢屋の前、久我様の隣りなどの解答も正しい解答としてとり扱つてあります。

第三問 行つてみたことがありませんか 一、ある 五三、三% 二、ない 四六、七% 回答者の過半数が公民館に次の項のどれかのことできていられる。二、ない の中に公民館の前の道を時々通るが入つたことがないという人が三名ある。

第四問 なんのために 一、展覧会 二六、五% 二、討論会、講演会 二六、二% 三、図書借用 一六、九% 四、会議 一六、三% 五、その他 一四、三% の順序で一番の展覧会はおそらく開館記念郷土史の展覧会にお出になつたのでしよう。



「婦人週間」といふのは一体男女どちらが設けたのか、男女相談づくでござい

図書館の事ども

卷中学校 本 間 衛

『教育は無形の財産』である、だからこのペン先が金ペンであるか偽物であるかを諸君の前に科学的に証明しようと言つて、硫酸の中にペン先を入れて群衆の注意をひいた大道商人があつた。それは私が小学校時代の遠い昔のことである。

教師とは『無形の財産』をつくるべく奉仕する種類のものを指すとも言える。そしてこの奉仕は根本精神はともかくも表面的にはいろいろの變化をして来た。『知識』の人であるべく或は『思想』の人であるべく或は『言』あげくれない人であるべくと。そして現在では『民主主義』なる社会をつくり出す人をつくるための奉仕者であるべくと。

アメリカ的教育の一つの特徴は図書館教育にみる事が出来る。昨年新潟の縣立図書館でアメリカのライブラリアン数名の図書館学の話をきいたことがあつたが、その中に出て来る言葉の多くは『サーヴィス』としてのライブラリーであつた。

『手へよ、さらば求めむ』の自主的教育へと進んでいける。そしてこの教育と図書館を重視する教育とは新に又私達をして考えさせるものがある。学校図書館と公共の図書館とは自ら異なるところはあるが、その点か疑問にぶつかつたら解

水 虫 石田節之助

鹿の子雪透りやまなみに見ゆれどもうらら春日は水虫うづく
こしかけの棧すり鳴らすわれが足日にいくたびぞ水虫にくし
カンフル精塗布のときは燃ゆるがにいとたいかたき水虫の足道を往く靴音かなしこのひごろ水虫の足をわがきながら
これの世にいつの日たれの命名しにや水虫てふをいたく吾忌む

決へと努力する態度と習慣を養う社会人としての教育(学校も立派な社会である)として『わからぬ』を『わからぬ』より『わからぬ』の時は図書館へ。の自主積極的な追求への態度が大事な現代教育の目標の一つである。生徒や人々にとつて図書館が常にその要求に答える生きた『伴侶』であり『百科事典』であり『伸びゆく者』への『指導者』であり『奉仕者』であることを願うと共に、『奉仕者』の充実を切望することは又当然の歸結でなければならぬ。

【抜書・聞書・覺書】

西川の今昔噺など

南は地藏堂より北は平島まで延々曲折十数を貫流する西川は美に本郡の生命線である。今から五十二、三年前は吾國三大河の一つ信濃川の激流が無遠慮に吾が西川に侵入し、年々堤防を破壊し。或は越水して人畜田畑に多大の損害を与え彼の東の横田切、西の上條の破堤等未曾有の惨事もあつた。又盆の十三日に妙光寺の裏の堤防が危険でお寺の鐘を鳴らすやら農家で貝を吹いて非常事休を町民に知らせた。非常警報に驚く町民は祖先の墓参りも忘れ全町民舉げて徹夜で必死防水に当り幸い難を免れ、かいつて楽しいお盆を迎えた

其の当時よく外人人が吾町に来て彌彦参詣の途中、濱街道を通つて、巻は大きな湖水が二ヶ所も在る処で其の湖に彌彦、角田の靈峯が映つて絶好の勝地だなどと話して行くも無理がなかつた。(今の堀山田圃と下郷屋の田を言う)この様に年々郡民の損害のみならず國家の被害又甚々しかつた。政府は五ヶ年計画で大河津分水を企圖し、たしか明治三十四、五年頃と思ふ。東洋一の難工事も完全に成功し、以来あの様な悲惨なる水害も夢にも見ず西川の水は秋の收穫後は谷川の如く川底を清く流れ、子供のよき遊び場となり又田植時季は河水満々と流れ、いかなる炎天續きでも用水の心配なく美に全国にも稀なる好耕地と言ふも過言でなからう。これは全く大河津分水の賜である。吾々七十歳以上の老人はこの惨事を實際に経験したので誠に感慨深いものがある。これからの若い農家の人達が、この美田を有意義に御奮闘を希うものである。

糞尿談

糞尿談

心配なく美に全国にも稀なる好耕地と言ふも過言でなからう。これは全く大河津分水の賜である。吾々七十歳以上の老人はこの惨事を實際に経験したので誠に感慨深いものがある。これからの若い農家の人達が、この美田を有意義に御奮闘を希うものである。

◇我々健康体の人間は毎日一回くそをするのが普通である。漢字では糞又は屎と書く、糞は米のかわつたものと糞尿の意味であり、尿と糞のしかばねと言ふ意味である。さてこの大事な米の糞を糞尿したしるものであるくその始末をどのようににやつているのであろうか、これが大問題である。こんなくその話をすると紳士、淑女はまゆをひそめるかも知れないがまゆをひそめるだけでは困る、くさいものにはふた式であつてはならない、我々はともすれば上の方の口は重要視する。きれいな水、栄養のある水満々と流れ、いかなる炎天續きでも用水の

◇思ふに、その始末の如何によつて文化の程度が計られる。合わぬの生ばんは家の中にくそをしない、野原にするさうだ。人口稀薄の土地ではよい方法かもしれない。朝鮮、支那では犬や豚になめさせる。飼料の経済のためである。或る野ばん人は穴を掘つて棒を二本わたしてその上でする。桶の中にするもの、水洗便所と千差万様である。除々に便所など改善してくその始末をきれいにしてくさくさいところに生活したいものである。

◇されど人生とは變化である食べることとくその始末とこれをきれいに立派になし遂げて行く日々の営みである。万物は流轉する、かなしむこともなやむこともない。これがいやならあの世に行くより仕方があるまい。古人曰ふや『喜ぶこと悲しむこと、これ我等の目的ならず、人生の目的はただ傍きて今日よりよき明日を得るに在り』と